

今週のメニュー

■トピックス

◇アナログレコード人気が復活

■随想

◇芸は身を助く！？ IV. 「出演・公演」

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫
紫風会 主宰 泉 紫風

■編集後記

■トピックス

◇アナログレコード人気が復活

1980年代にCD（コンパクトディスク）が登場して以降、音楽のデジタル化が一気に進み、今やダウンロードしてスマホで聴く時代。そのなかで、アナログレコードの販売量が増え、アナログレコード人気が回復しています。

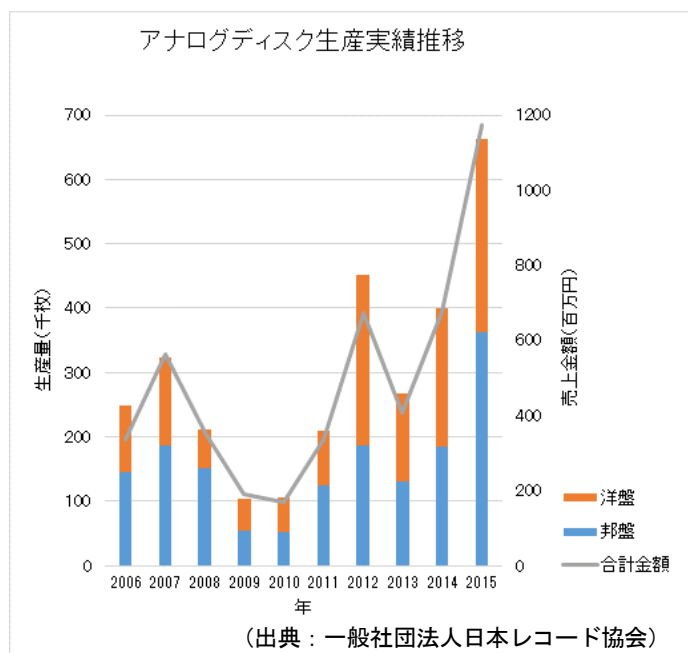
日本レコード協会統計によると、2015年のアナログディスク（レコード）の生産数は、662,000枚を記録し前年の401,000枚に比べ65%も増加、2010年の105,000枚に比べると約6倍の伸びで推移しています。（右図）

人気再燃のきっかけは、2012年に発売された人気ロックグループの復刻レコードで、これによりレコードの魅力が見直されたといわれています。その後、ジャズやロックの名盤の復刻盤が相次いで発売されました。

主な購買層は50、60代のシニア層で、昔買ったレコードをもう一度聴きたいというひとが多く、加えて、最近では20代の女性も増えてきており、こうしたレコード音楽ファンのすそ野の広がりが人気をけん引しているようです。また、手頃な価格で買えるプレーヤーの存在も、このようなレコードの復活を後押ししています。

最近、ジャケットデザインが素晴らしいことや、部屋に飾って楽しめる魅力もあるというファンも増えていることも、人気を押し上げている背景の一つといえます。

実は、アナログレコードは塩ビで作られているのです。なぜなら、塩ビは、レコード針の反発を吸収して、摩耗しにくい上に、音の再現性も安定した聴きやすいレコード盤ができるというレコード素材として優れた適性をもっています。これが、レコード音楽の魅力を支えています。人々の生活を潤す音楽文化の一端を担うのも、やはり塩ビならではの役割なのです。



レコードメーカーとして国内唯一である東洋化成(株)では、フル稼働が続いており、海外からの依頼も増えているそうです。毎年レコードの日（11月3日）に音楽のイベントを開催するなど、レコード音楽の魅力を感じてもらおう活動をされています。今後もレコードの盛り上がりを楽しんでいます。

■ 随想

◇芸は身を助く！？ IV. 「出演・公演」

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫
紫風会 主宰 泉 紫風

初めての出演・・・。

長唄三味線で永年舞台に立っていた母からの一言・・・「川原乞食に徹せられるか?!」お金を頂いて舞台に立つというのは、私心を捨て聴衆に迎合すること、譬え罵声を浴びせ掛けられ石を投げつけられようと顔色変えずに演じられるか?! 我儘なお前にそれができるか?! 初めての舞台を前に、重く深い一言でした。

そして、この世界のギャラ（出演料）はピンキリなのです。私の場合は今までの所1ステージ（30分から1時間）で、ピンは100万円、キリは500円でした。相場が無いのです。

のっけからお金の話では品がありませんが、とても大切な部分です。

「出演料」「ご祝儀」「御礼」「謝礼」「志」「寸志」「花」「お花代」「酒肴料」等々、いろいろな表書きの現金封筒を頂きましたが、ビジネスライクに10%の内税を記した振込金額だけを書いた紙を渡されるのは、現代の企画会社やプロダクションです。

中には現金丸出しで手渡しされたり、芸に支払う予算は無いから道楽家の紫風さんをお願いしたいとおっしゃる方には、僭越ながら、この世界の良識をレクチャーさせて戴いた事もありました。高が芸人へのギャラではありますが、どんな場面でも、お金の使い方は人間性や社会性が表れるものです。ギャラは、まさにお客様の満足度の反映でもあり、又、人間の機微がもろに現れるものでもあります。100万円頂いてもそれ以上の芸をお返しする心意気、時に500円で良しとする事も試練です。

ただ、この世界で生業を立てている仲間の手前、道楽で自分の芸を安売りする訳にもいきません。日本人には、もっと日本の文化や邦楽に造詣を持ってもらいたいと実感する現代です。

さて、ようやく本題に入ります。

出演は、各種施設への慰問（老人ホーム・幼稚園保育所・身障者施設・刑務者など・・・）
結婚式や年中行事・記念式典などへのご祝儀演奏、これらは民謡の唄を中心にした発表が主な形態です。

痴呆老人や精神障害・統合失調症の方の中には、邦楽器の三味線や特に篠笛の音色に表情や態度がみるみる変わっていく方や、ひとしきり涙を流す方が、どこの施設にも必ずいらっしゃいます。音楽療法があると聞きますが、身を持って毎回感じる所です。

初犯がない富山刑務者での演奏には閉口しました。講堂に集まった300人近くの入所者の皆さんから発せられる威圧感は半端ありません。日本の子守唄メドレーを吹き終わった途端に、首筋から冷や汗が滴り落ちましたが、心を込めて吹いた母心を感じ取って戴いたと信じています。

目出度い席での演奏は殊更に思いが深くなりますので、なるべく乾杯前に、ご祝儀演奏として演じたい旨お伝えしています。

その他に、詩吟大会では楽器での伴奏演奏、演歌歌手のディナーショーや落語寄席での色もの(合間に違ったジャンルの見せものを出してお客さんに一息入れさせる)などです。こちらは民謡ではなく紫風の篠笛創作曲(古典風)演奏や津軽三味線が主です。

公演というとチケット(有料・無料問わず)を発行しての一般客対象の舞台ですが、紫風30周年記念ライブから始まり、35周年、一昨年には40周年記念ライブを行いました。会の発表会もお客様をお迎えして毎年の恒例イベントです。その他には役場の観光課など行政関連団体が主催する紫風コンサート・ライブで一般市民の皆様に向けて戴いたりしています。

北海道滝川市では二度も紫風ライブをさせて戴きましたが、本場の北海道で「江差追分」を唄わせて戴き、しかも二度とも、身の程知らずにも昨年の江差追分全国大会優勝の佐竹春敏氏にソイ掛け(お囃し)して戴き、身に余る光栄でした。素人の道楽ですが、こんな私のファンの皆様の為にも、まだまだ頑張ろうと勇気が湧いてきます。感謝です。

最後に、2008年に遠征したヨーロッパ公演を終えて書いたブログを貼り付けて結びと致します。

2008年3月に約一か月のヨーロッパ遠征でした。10か所でのコンサートはWMSF行事で、日本の邦楽を欧州に広めるという趣旨のイベントです。10名の邦楽プロ集団に交じって、私は津軽三味線と篠笛奏者として随行しました。オランダ(アムステルダム・ハーグ)・オーストリア(インスブルック)のコンサート会場(700席から1300席)は全て満席状態、毎回朝10時から始まるリハーサルはコンサート開始の20時までの10時間、厳しいプロの試練でした。因みにハーグ公演では地元紙の記事で四ツ星評価を受けました。



絢爛豪華なオペラ劇場



左上、右：豪華な楽屋はいつも一人独占！
左下：長く寂しいリハーサル！

(2008年5月のブログより)

所変われば・・・♪

「3月のヨーロッパ公演、帰国後は富山・東京・大阪と各地で演奏をして、最近思うことは、もちろん演奏会か余興かの違いはあるにせよ、又、ヨーロッパと日本との違いはあって当然と思えるものの、小さな日本の中でこんなに、芸に対する感覚が違うものかと実感している。

どこがどうだったとは差しさわりがあるので言えないが、まず、ヨーロッパ公演で感心したことは、お客さんは舞台だけを見に聞きに来ている訳ではなく、コンサートのある夜を愉しみに来ているのだった。老若男女、皆正装で、演奏が終わると劇場ロビーがサロンに早変わりしてお客様同士、又出演者とのコミュニケーションあり、延々1~2時間はアルコールやソフトドリンクを片手に談笑し三々五々帰って行く。演奏が終わってもアンコールではなくカーテンコールだけというのも全力を投球して舞台を終えた出演者への素敵な配慮と思える。

さて日本はと言えば・・・、開演時間を気にしながらカジュアルウェアで会場に飛び込み、演奏中の会話、終われば我先に出口を目指す。(せっかく高いお金払って！そんなにつまらないのかよ！)

宴会の余興なんかになると、勝手にやってろ！スタイルで大声で雑談、特に宴会では、お披露目の芸人をどの段階でどんな風に扱うかが、地域によってぜんぜん違って来る。

富山と石川でも大きく異なる。

金沢は芸や遊びに対する姿勢がとても真剣であるように思う。

富山人気質は仕事熱心で真面目、遊びの極意を知らない人が多いのではなかろうか？同じ県民として少し残念な気持ちを持たざるを得ない。

今や世の中は環境問題・金融問題で揺れに揺れている。

目線を変えれば本物が見える。

ヨーロッパが近代に入ってもいつも世界の中心であり続けられたのは、文化・芸術を大切にしているからではないだろうか、折に触れ思う。

なぜなら、人間の心を本当に動かせる原動力は、お金や権力ではなく、純粋に感動することだと確信しているからだ。

なんと小難しいブログなこと・・・。反省しきりで筆を置きます。

紫風」

私の出演記録は「[紫風会ブログ](#)」で活動報告をさせて載けてます。

今回は、最近の活動報告やら現代の芸事に対する思いやらをお伝えしたいと思います。皆様のご意見・感想など拝聴出来たら大変嬉しく思います。

合掌 泉紫風

(つづく)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

正月に深大寺（調布市）に詣でた際、近くにある神代植物公園大温室に立ち寄り、数多くの珍しい熱帯植物を観てきました。そのなかでも、「ジャボチカバ」という幹に直接実が成る珍しいフルーツに目が留まり、特に興味深かったので紹介します。南米が原産で、ブラジリアングレープツリーという別名がついています。まさにブドウの巨峰にそっくりな実です。味もブドウに似ているそうです。

この植物は成長が遅く、種から育てると花が咲くまでに10年はかかるそうです。この説明をみて、最近読んだ「柚子の花咲く」（葉室麟）を思い出しました（桃栗3年、柿8年、柚子は9年で花が咲く・・・地道な努力が大切という教えが込められています）。

（UCH）



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp